

2022年度筑波大学附属図書館の活動

新型コロナウイルス感染症対策のために利用制限していた図書館サービスの再開

学習支援



中央図書館のセミナー室

新型コロナウイルス感染症対策のために利用制限が続いていましたが、2022年度は、6月13日からセミナー室や多目的学習室の学生の予約利用、10月3日から中央図書館のラウンジやリフレッシュゾーンのグループ利用等、段階的に利用を再開しました。また、2023年2月21日から学外の方の来館利用および一般の方への学外者貸出利用証の発行・更新の申込み受付を再開しました。今後は、コロナ禍を経て拡充や転換を行った、来館せずに利用できる新しいサービスのうち、必要なものを継続しつつ、学習・研究により役立つサービスや環境を提供します。

ライティング支援セミナー再開

学習支援

2022年度ライティング支援連続セミナー

差がつく！レポート攻略術

お待たせしました！
3年ぶりの開催です！

1st	2nd	3rd
文章の目的と構成を考える 三波千穂美先生 (図書館情報メディア系) 10/27 木 15:15-16:15	ハゲタカ(predatory)を避ける:投稿も利用も 逸村裕二先生 (図書館情報メディア系) 11/10 木 15:15-16:15	論理的に書くために 田川拓海先生 (人文社会系) 11/17 木 15:15-16:15
「事実」と「意見」を区別する 野村浩二先生 (生命環境系) 11/24 木 15:15-16:15	データ、絵、文字 野村浩二先生 (生命環境系) 12/1 木 15:15-16:15	「うまく書く」ってどんなこと？ 五十嵐沙千子先生 (人文社会系) 12/15 木 15:15-16:15

中央図書館本館2Fギャラリーゾーン 予約不要
参加 & アンケート回答で図書館オリジナルグッズをGetしよう！

1セミナー詳細情報

ライティング支援連続セミナーポスター

新型コロナウイルス感染症の影響で2020・2021年度は開催を見合わせたライティング支援連続セミナーを、3年ぶりに開催しました。学習支援推進WGで研究開発室の先生方と検討し、コロナ禍の前（2019年度）と同様に1回60分のオムニバス方式で、秋学期に対面開催しました。内容は左のポスターの通りで、参加者は延べ132名でした。

アンケートによれば、参加の動機はレポート・論文作成のスキルを高めたいというものが多く、受講後の感想として「論文を書くということについて、改めて基本を整理する機会になったので良かった」、「一方的でなく、自分も発信できる形式のセミナーは新鮮で良かった」などの声が多く寄せられました。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/support/writing-seminar>

附属図書館ラーニング・アドバイザーによるオンライン企画の開催

学習支援

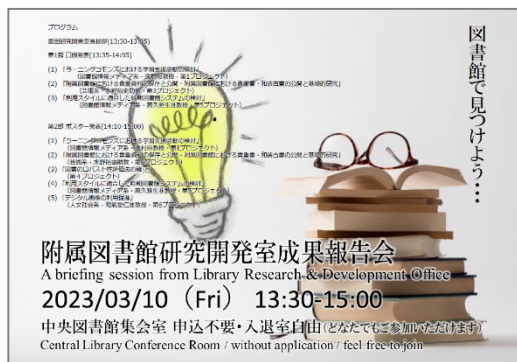


オンライン企画開催風景

2022年10月12日、中央図書館の学生サポートデスクで活動するラーニング・アドバイザー（LA）が、LA企画「筑波大生なんでも相談室」をオンラインで開催しました。相談内容は事前募集したほか、開催中もリアルタイムで受け付けました。

当日は、進路や大学生活に関すること、レポート・論文の書き方、奨学金に関してなど、寄せられた様々な悩み事に、LAそれぞれが自分の経験を踏まえながら回答しました。

修士1年から博士3年までの多種多様なバックグラウンドをもつLAのアドバイスは、質問をした筑波大生だけでなく、回答者として参加した他のLAにとっても参考となるもので、意義のある会になりました。



研究成果報告会ポスター

研究開発室では、学内の教員と図書館職員等が協力して、図書館機能や貴重図書の保存・公開、図書館の教育研究支援に係る調査・研究、および学術情報の収集・発信等の制度的・技術的課題の研究・開発を中心に活動しています。

令和4年度は、室長と室員の14名により、役に立つ大学図書館を目指して具体的な企画・実施を図っていくため、6つのプロジェクトで活動しました。

2023年3月10日、各プロジェクトの研究成果報告会を中央図書館集会所で行いました。口頭発表とポスター発表を行い、多数の学生・教職員が参加しました。使用したポスターは、3月22日から3月29日まで中央図書館2階で掲示し、研究開発室の活動を広く知っていただく機会としました。

新規購入の主な教育研究学術資料

研究支援



『女子文壇』

人文社会系コレクションとして、『女子文壇(復刻版)』及び『Historisch-kritische Ausgabe / Friedrich Wilhelm Joseph Schelling (F.W.シェリング全集)』を購入しました。

前者は1905年に創刊された文芸雑誌で、二十世紀初頭の女性たちの自己表現の場となり、女性文学・フェミニズムの原点となった重要な資料です。後者は、ドイツ観念論を展開した哲学者シェリングが著した多様なテキストを採録し、詳しい注釈を加えた包括的な全集です。今回未所蔵分を購入し、既刊分の全巻を揃えました。

また、研究大学強化促進事業経費により、「新訂増補國史大系」及び「史料纂集(第1期古記録編)」、「全国商工会議所関係資料(近畿、九州/沖縄)」「宮澤喜一関係文書」等のオンライン版を整備しました。

令和4年度附属図書館特別展「孔子をまつるー歴聖大儒像の世界ー」を開催

社会貢献



歴聖大儒像（朱子像、張子像、程伯子像）

11月1日から18日まで、中央図書館において特別展を開催しました。本展では、本学が所蔵する「歴聖大儒像」6幅をはじめ、東京国立博物館に所蔵されている関連資料も借用して展示を行いました。孔子を祀る祭典「釈奠」をキーワードに、昌平坂学問所や湯島聖堂所縁の資料を一堂に揃えました。11月2日には講演会、11月5日にはシンポジウムを開催しました。本年は事前予約制ながらもコロナ禍以降3年ぶりに学外者の入館も可能となり、延べ約1,500名にご来場いただきました。作成した図録・電子展示も好評でした。

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/2022/>

田村直翁筆「架鷹図」の修復

社会貢献



修復工房にて本紙貼り込みの様子

附属図書館で所蔵している田村直翁筆「架鷹図」は、1650-1660年頃の制作で、料紙に架鷹が描かれ金箔台紙に押貼り幀装された屏風装のものになっています。現在、所在が確認されている田村直翁の6作品のうちのひとつで、落款印とともに自筆署名のある本作品は貴重なものであると考えられ、江戸時代初期の架鷹図として重要な資料です。

本屏風は2000年、附属図書館にて狩野探幽・尚信の新出屏風とともに存在が確認されたもので、2020年10月から2023年3月にかけて保存修復作業を実施しました。



ボランティア懇談会の様子

附属図書館ボランティアは、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年3月から約2年半活動を休止していましたが、2022年9月から図書館の利用者と対面しない書架整理、図書修理、展覧会ポスター資料整理の活動を再開しました。

11月には3年ぶりに対面形式で附属図書館ボランティア懇談会を開催し、活動再開後の活動報告や永年功労者の表彰を行いました。同時に開催したボランティア講演会では人間系の原田悦子先生に「モノの使いやすさ」を考える心理学」と題してにお話しいただきました。

また3年ぶりにボランティアの新規募集を行い、来年度から予定しているボランティア活動の全面再開に向けて準備を進めています。

2022年度刊行書籍とリポジトリ全文公開

情報発信



2022年度刊行書籍

筑波大学出版会は、附属図書館内に事務局を置き、筑波大学の研究成果を発信するため、学術書、教科書、一般教養書等を刊行しています。

2022年度は次の4点が刊行され、うち1点は販売好調のため増刷となりました。また、教科書として長く利用されている書籍の増刷もありました。

新刊

『距離分布からみる空間』

『もっと知りたい！「科学の芽」の世界PART8』

『IBDフェローのための First Aid マニュアル』 重版出来！

『移住労働とディアスポラ政策』

増刷

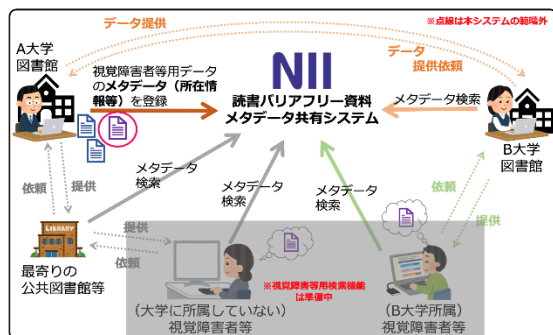
『森林学への招待 [増補改訂版]』

附属図書館のつくばリポジトリでの全文公開タイトルは、今年度5点を追加し、全7点となりました。

<https://www.press.tsukuba.ac.jp/repository.html>

国立情報学研究所読書バリアフリー資料メタデータ共有システムへの参加

情報発信



※今後、本システムとIRDB（機関リポジトリデータベース）を連携し、国立国会図書館サーチにデータを提供予定

出典：<https://a11y.pub.nii.ac.jp/overview>

国立情報学研究所読書バリアフリー資料メタデータ共有システムは、大学図書館等で、視覚障害者等のために電子化された資料のメタデータを検索可能にし、図書館間での資料の共有を促進することを目的とし、2022年10月4日から本運用が開始されました。当館では試験運用時から参加しています。

現在、当館が作製したテキストデータ49件のメタデータを登録しています。なお、テキストデータ自体は国立国会図書館に提供しており、同館の視覚障害者等用データ送信サービスを通して、全国の視覚障害者等が利用できるようになっています。